

小美玉からなでしこリーグ、そして日本代表へ

挑戦で大きい幹を育てて

京川 舞 | INAC神戸レオネッサ

女子サッカー選手(FW)
堅倉FC(現MINORI FC)、小美玉レディース出身



サッカーを始めたのは、小学2年生からです。習い事をしようと堅倉FCを見学したときに、ボールに触らせてくれたり、楽しませようとしてくれて。歓迎されたことが嬉しかったです。思い出は、練習前のリフティング。100回連続できたらご褒美をもらえるチャレンジで、夢中になるうちに基礎技術が身につきました。OBのプレーを見て学ぶことも多く、その経験が、他の選手から吸収する姿勢として今も生きています。

小学生の頃は、持久走で1位になったときはマフソン選手になりたい、水泳を習い始めると水泳選手になりたいと、将来の夢がよく変わっていました。サッカー選手を目指しはじめたのは小学5〜6年生のとき。

女子のクラブチームがあると知ったからです。卒業文集に書いた夢は、今も変わっていません。ワールドカップやオリンピックに出て、日の丸をセンターポールに掲げて君が代を歌うこと、それを実現したいです。

なでしこリーグでプレーするようになってから、大きな怪我でサッカーできない時期がありました。とてもつらかったですが、地元のみんなから心配や励ましの連絡をたくさんもらいました。支えられていると肌で感じた瞬間でした。本当に感謝しています。

子どもたちには、何にでもチャレンジしていろいろな世界を見てほしいです。挑戦と失敗を繰り返して、自分の中に大きい幹を育ててほしいと思います。

写真提供: INAC神戸レオネッサ

オンライン対談!

選手 × 監督 × 育成者



監督: 藤田晃人さん



選手: 京川舞さん



育成者: 富山秀則さん



育成者: 武田英行さん

子どもたちを育てる地域の指導者

■子ども時代の京川さん、藤田さんの印象は?

武田: 藤田はゲームメーカー。戦術をよく理解していて、チームメイトに伝えることもできたので、指導者向きだと思っていました。京川はチャンスメーカーで、ゴール前でボールを持つと点を取れるイメージ。とてもまっすぐで、「これをやろう」と言ったらいつまでもやっているような子でした。

幸せを与えられる指導者に

藤田 晃人

NPO法人小美玉スポーツクラブ 中高アカデミー事業部長、小美玉フットボールアカデミー監督。
堅倉FC(現MINORI FC)、鹿島アントラーズジュニアユース出身



京川選手は私の4つ年下で、堅倉FCで一緒にプレーしていました。お互いに、当時から負けず嫌い。1対1の練習で、年が離れた自分に彼女が何度も立ち向かってきたのを覚えています。

サッカー選手が学校の先生になるのが夢で、大学卒業後に高校サッカーの指導者になりました。でも、初めはまったく上手くいかず挫折。自分の指導力のなさに落ち込みましたが、本をたくさん読んだり、助言をいただいたりしながら自分を磨きました。4年前から小美玉フットボールアカデミーの監督に。責任もあり大変な毎日ですが、やりがいがあります。

今の夢は、サッカーを通じて幸せを与えられる指導者になること。もっと多くの人に見てもらって、女子サッカーならではの楽しさが広まればうれしいです。

生徒たちには、心と心でつながり人の心を動かせる「地元のヒロイン」になってもらいたいです。そのためにはただ技術がある選手を育てるのではなく、人間としての土台をつくるのが大切です。

■指導者として気をつけていることは？

富山：楽しくさせる、できたらほめる、できなかったときは「なぜなのか？」と問いかける。指導者は常にそう考えてやらないといけないと思っています。

武田：楽しければ、子どもは自分からやりたくなります。いかに楽しくさせるかですね。

小美玉市のスポーツ少年団

市内にはスポーツ少年団が25団体あります。サッカー、野球、バスケット、空手など種類もさまざま。子どもたちは活動を通して、スポーツの楽しさや社会のルール、思いやりの心を学び、協調性や創造性を養います。指導するのは地域のスポーツ指導者や少年団出身者、団員の保護者など。小美玉市にスポーツ文化の土壌があるのは、地域の大人や先輩が少年団の活動を支えてくれるから。地域みんなで子どもたちを育てています。

武田英行 (たけだ ひでゆき)
MINORI FC所属(当時は堅倉FC)／
五年生以下(U-11)担当

富山秀則 (とみやま ひでのり)
小美玉市サッカー協会4種委員長・
羽鳥SSS(サッカースポーツ少年団)コーチ

地域の
応援を力に！

小美玉で育まれる 未来の「地元」のヒロインたち

ユニフォームを着ると気分が上がります！



ユニフォームは普段の練習では着ない特別な服なので、着るとすごく気分が上がってやる気が出ます！ ユニフォームには家族でよく行くお店のロゴが入っていて、親近感があります。

森永華帆さん（美野里中1年、小美玉市出身）

最近の楽しみ：

朝早く起きて他のメンバーと一緒にランニングをすること。
気持ちいいです！

学校生活、すごく楽しいです！

小川南中学校に通っています。地元宮崎の学校に比べて、南中はクラスが少ないのでみんなと早く仲良くなれて、友達もたくさんできました。オフの時間には友達への誕生日プレゼントを手作りしています。

寺澤ゆりなさん（小川南中2年、宮崎県出身）

将来の夢：サッカー女子日本代表



おいしい食材に感謝！

地域の方との交流も楽しい！

寮の食事の食材やスポーツ飲料を地元企業の方が提供してくれています。小美玉の食材は、とてもおいしいです！お世話になっている地域の皆さんと一緒に、バーベキューやお正月の餅つきをするのも楽しいです。乾杯はもちろん、おみたまヨーグルトです！

野口陽菜さん

（アカデミー卒業生、高校1年、小美玉市出身）

小美玉市の好きなところ：

京川舞選手がいること。ずっと憧れの選手です。



スポレクデーでは

子どもたちが楽しめるように

盛り上げています！

スポレクデーに毎年参加してブース運営のお手伝いをしています。レクリエーションのやり方を説明したり、記録をつけたり、呼び込みをしたり。来た子どもたちが楽しくスポーツに親しめるように、みんなでイベントを盛り上げています！

益子由愛さん（小川南中3年、キャプテン、ひたちなか市出身）

今年の目標：

関東ベスト8になり全国大会に進むこと。チームの一体感を作るため、キャプテンとしてプレーで引っ張っていきたいです。



女子サッカーの間口が、小美玉市で広がって
きていと感じています。女子は中学生になる
と、学校や地域に女子チームが少ないために
サッカーを続けられない子が多くいます。だか
ら、親元を離れてでも「大好きなサッカーを続
けたい」と、このアカデミーの門をたたく。そう
いう情熱のある子たちが全国から集まる受け
皿になっているのです。

女子サッカーを取り巻く環境は少しずつ改
善していて、女子のクラブチームが全国で増え

循環しつづける 活躍の場

小美玉フットボールアカデミー
スクールマスター
松下潤(まつしたじゅん)

てきています。ただ、他の地域にはない強みが
小美玉市にはあります。「人の循環」です。監督
を務める藤田をはじめ、小美玉市出身のスタッ
フが選手たちのサポートをしています。選手の
中にも、将来トレーナーなどの指導者を目指
す子もいます。小美玉を一度巣立った子ども
たちが戻ってきたときに、指導者として活躍で
きる場があること。そういう人の循環を生み出
していけるのは、小美玉市でサッカーを通じた
人材育成をしている一つの意義だと思えます。

